

第50回日本臨床分子形態学会総会・学術集会は本年9月7日・8日の2日間にわたり北里大学で開催し、盛会の内に閉会いたしました。8日に執り行われた評議員会・総会では新理事長の選出があり、片渕秀隆先生が満場一致で承認され、就任いたしました。

第5代理事を拝命して



熊本大学大学院生命科学研究部産科婦人科学
片渕秀隆

この度、7年間にわたり理事長として本学会を強力に牽引しその発展にご尽力いただいた向坂彰太郎前理事長が任期途中でご退任されたことに伴い、2018年9月8日、第50学会年度総会において理事長にご指名頂きました。歴代理事長として、初代安澄権八郎教授（1968年～1983年）、第2代滝 一郎教授（1984年～1999年）、第3代森 道夫教授（2000年～2011年）、そして第4代向坂教授（2012年～2018年）と、医学の世界に足跡を残された偉大な諸先輩諸氏によって引き継がれた50年に及ぶ長い歴史を振り返ると、身に余るこの大役に身が引き締まる思いです。私のこれまでの研究と臨床は常に形態学を基軸とし、人体の生理と病理の解明に専心し、患者さんの診断と治療に研鑽を重ねて参りました。この経験をもとに、与えられた任期の間、全身全霊をかけて本学会のさらなる発展に尽くす所存です。

私が医師になって2年間の産科婦人科学の研修を終え、入学した病理学の大学院で与えられたテーマは、ヒト胎盤絨毛間質に常在するHofbauer細胞について、マクロファージとしての形態と機能を超微形態学と免疫組織化学の2つの手法を用いて解析することでした。これまでの37年間の研究生活の中で、全国学会での最初の発表は、名古屋市で渡 仲三教授が1985年に開催された第17回日本臨床電子顕微鏡学会総会・学術集会でした。当時の会員数は2千7百名にも上り、電子顕微鏡を研究手法とした沢山の発表で盛況でした。その後、『奨励賞』、『論文賞』をいただき、2016年9月には第48回学術集会を熊本市で担当させていただきました。昨年には『安澄記念賞』の荣誉に浴し、まさに私の医師人生はこの学会の中で育まれたと言っても過言ではありません。

本学会は「産婦人科電子顕微鏡同好会」を母体として1968年に設立されました。その趣意書には、「今まで基礎医学の進歩発展に寄与した電子顕微鏡は、臨床医学においても欠くことの出来ない重要な利器となり」と記され、安澄教授は、この学会の発足に際し、「お互いに知見を交換して、組織的に臨床医学の向上の機会を得るように」との方向性を述べられておられます。本学会の基本理念は、基礎と臨床を両輪とした医学の発展に寄与することです。理事会に設置されています庶務委員会（小林道也委員長）、財務委員会（原田 大委員長）、編集委員会（千田隆夫委員長）、学術委員会（齋藤 豪委員長）、長期計画委員会（小路武彦委員長）、広報委員会（矢野博久委員長）の6つの委員会が一致団結して、理念に沿った運営を今後も行って参ります。

医師であり明治・大正期の政治家であった後藤新平が、「金を残して死ぬ者は下、仕事を残して死ぬ者は中、人を残して死ぬ者は上」の言葉を残しています。次世代の本学会を託す若い世代の研究者が自ずと集い育っていくことこそ本学会の方向性であり、これを私の使命として任期を全うする所存です。会員の皆様のご支援、ご協力を頂きますようお願い申し上げます。

歴代理事長

初代

第2代

第3代

第4代



安澄 権八郎先生 滝 一郎先生 森 道夫先生 向坂 彰太郎先生

日本臨床電子顕微鏡学会設立趣意書

高度な分解能を有する電子顕微鏡の応用は医学、殊に形態学の発展に大きな貢献をもたらしつつあります。

最近では形態学以外の分野、すなわち生化学や薬学においても、電子顕微鏡が応用されるようになり、形態学と生化学との領域は著して近接し、極微の形態学知見も生化学的に裏付けられるまでになっております。このような注目すべき進歩に呼応して、今まで主に基礎医学の進歩発展に寄与した電子顕微鏡は、臨床医学においても欠くことのない重要な利器となりつつあります。

しかし臨床面では、この方面の研究者の学問的な連繋はまだまだ無く、お互いが充分に知見を交換し合う場や、組織を持たない現状にあります。このことは電子顕微鏡による臨床医学の研究成果が各方面に正確且つ迅速に認知されることを困難にしており、ひいてはこの方面に関心を持つ人々のアプローチや、啓蒙の機会を失わせていることにもなっております。

このような状況を顧みる時、臨床領域においても早急に電子顕微鏡に関する同好会乃至学会を設置する必要性は明白でありますし、幸いにも、その機運が各方面で盛上っております。ここに有志相諮り、日本臨床電子顕微鏡学会の設立を広く医学の各分野に提唱する次第であります。

本会の目的はいまうまでもなく、電子顕微鏡によって臨床医学の諸問題を解明して医学の発展に貢献することであり、本会の事業としてはこのための研究発表会、機関誌及び文献誌の刊行などを行う予定であります。

何卒各位には、本会設立の主旨および事業に理解と賛同を賜り本会に御参加くださるようお願い申し上げます。

昭和 43 年 7 月 20 日

日本臨床分子形態学会

歴代理事長

初代	安澄 権八郎	1968 ~ 1983
第2代	滝 一郎	1984 ~ 1999
第3代	森 道夫	2000 ~ 2011
第4代	向坂 彰太郎	2012 ~ 現在

歴代会長 (会期・会場・会長) (2005年1月1日～学会名称変更)

年 度	会 長	所 属 (役職: 教職)	会 期	会 場
1 1969	安澄 権八郎	奈良県立医科大学解剖学教室	1969.9.14-15	奈良県立医科大学講堂
2 1970	沢崎 千秋	日本大学医学部産婦人科学教室	1970.9.14-15	国立教育会館
3 1971	松村 孝樹	関西医科大学小児科学教室	1971.8.21-22	大阪厚生年金会館
4 1972	藤田 英隆	山口大学医学部皮膚科学教室	1972.9.9-10	山口県民会館
5 1973	藤住 一典	群馬大学内分分泌研究所病棟	1973.8.29-31	群馬県民会館
6 1974	千田 信行	大阪府立成人病センター	1974.9.12-14	大阪府立青少年会館
7 1975	滝 一郎	九州大学医学部産婦人科学教室	1975.9.19-20	福岡市民会館
8 1976	上田 文男	愛知医科大学整形外科学教室	1976.9.17-18	名古屋市民会館
9 1977	橋本 正敏	札幌医科大学産婦人科学教室	1977.9.16-17	札幌市医師会館
10 1978	森安 信雄	日本大学医学部脳神経外科学教室	1978.9.8-10	国立教育会館
11 1979	三島 豊	神戸大学医学部皮膚科学教室	1979.9.18-19	神戸文化ホール
12 1980	中村 恒男	滋賀医科大学	1980.8.29-31	大津市民会館
13 1981	谷川 久一	久留米大学医学部第二内科学教室	1981.9.18-19	石橋文化センター
14 1982	坂口 弘	慶應義塾大学医学部病理学教室	1982.9.16-18	日本都市センター
15 1983	市田 文弘	新潟大学医学部第三内科学教室	1983.9.16-18	新潟県民会館
16 1984	榎本 勇	関西医科大学産婦人科学教室	1984.9.20-22	大阪産工会議所
17 1985	渡 伸三	名古屋市立大学医学部第一解剖学教室	1985.9.26-28	名古屋市公会堂
18 1986	吉田 吉信	滋賀医科大学産婦人科学教室	1986.10.25-26	京都府立動物会館京都産工会議所
19 1987	奥田 隆	日本医科大学耳鼻咽喉科学教室	1987.9.17-19	日本都市センター
20 1988	山元 寛男	九州大学医学部第一解剖学教室	1988.9.1-3	県立福岡青少年文化センター
21 1989	廣畑 和志	神戸大学医学部整形外科学教室	1989.9.20-22	神戸国際会議場
22 1990	岡田 慶夫	滋賀医科大学	1990.9.19-21	大津プリンスホテル

23 1991	佐々木 博	富山医科薬科大学	1991.9.12-14	富山県民会館
24 1992	太田 善介	岡山大学医学部第三内科学教室	1992.9.17-19	岡山衛生会館
25 1993	永田 哲士	信州大学医学部第一解剖学教室	1993.9.28-30	松本文化会館
26 1994	緒方 卓郎	高知医科大学第一外科学教室	1994.10.5-7	高知県民文化ホール
27 1995	大澤 源吾	川崎医科大学内科学(腎)	1995.9.28-30	倉敷市芸文館
28 1996	河村 慧二郎	大阪医科大学第三内科学教室	1996.10.17-19	千里ライフサイエンスセンター
29 1997	森 道夫	札幌医科大学第二病理学教室	1997.10.2-3	札幌市教育文化会館
30 1998	中井 康光	昭和大学医学部第一解剖学教室	1998.9.17-19	品川区立総合区民会館
31 1999	中村 三郎	日本大学医学部脳神経外科学教室	1999.11.17-19	日本学生会館 アルカディア市ヶ谷
32 2000	藤本 淳	産業医科大学医学部第二解剖学教室	2000.9.28-30	北九州国際会議場
33 2001	雨宮 次生	長崎大学医学部眼科教室	2001.9.27-29	長崎ブリックホール
34 2002	工藤 隆一	札幌医科大学医学部産婦人科学教室	2002.9.27-28	かでる2・7
35 2003	畑 俊夫	埼玉医科大学産婦人科学教室	2003.10.29-31	文京シビックホール
36 2004	岡村 均	熊本大学医学部薬学研究所先端生命医療科学部門成育再建・移植医学講座産科学分野	2004.11.5-6	ニュースカイホテル
37 2005	河本 圭司	関西医科大学脳神経外科	2005.9.30-10.1	大阪国際交流センター
38 2006	石原 得博	山口大学医学部 構造制御形態学講座	2006.9.29-30	宇布市文化会館
39 2007	大野 伸一	山梨大学大学院医学工学総合研究部解剖学分子組織学教室	2007.9.28-29	甲府市総合市民会館
40 2008	向坂 彰太郎	福岡大学医学部消化器内科	2008.10.3-4	福岡国際会議場
41 2009	磯良 愛郎	関西医科大学病理学第二講座	2009.9.4-5	神戸国際会議場
42 2010	市田 隆文	順天堂大学医学部附属順国病院 消化器内科	2010.9.24-25	東し総合研修センター
43 2011	大槻 勝紀	大阪医科大学生命科学講座産科解剖学教室	2011.9.9-10	大阪医科大学
44 2012	小林 道也	高知大学医学部医療学講座産科管理学分野	2012.9.28-29	高知市文化プラザかるぼーと
45 2013	上野 隆登	朝倉医師会病院	2013.9.13-14	アクロス福岡
46 2014	根本 則道	日本大学医学部病理生理学系病理学分野	2014.10.17-18	TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター
47 2015	小路 武彦	長崎大学大学院薬学薬学総合研究科医療科学専攻 生命医科学講座 組織細胞生物学分野	2015.9.18-19	長崎大学医学部良順会館・ボンベ会館
48 2016	片岡 秀隆	熊本大学大学院生命科学研究部 産科婦人科学分野	2016.9.23-24	くまもと県民交流館パレア
49 2017	千田 隆夫	岐阜大学大学院医学系研究科 病態制御学講座解剖学分野	2017.9.15-16	じゅうろくプラザ
50 2018	中村 正彦	北里大学薬学部臨床薬学・教育センター 病態解析学	2018.9.7-8	北里大学大村記念ホール

北里大学での第50回総会・学術集会は、148名の参加があり、一般演題数47題、特別講演4題、シンポジウム・ワークショップが25題ありました。また、50周年特別企画座談会内や開会式閉会式、受付ロビーでは中村正彦会長特製のスライド上映もあり、参加者の目を楽しませていました。

第50回日本臨床分子形態学会を主催して



第50回日本臨床分子形態学会総会・学術集會会長
北里大学薬学部臨床薬学研究・教育センター病態解析学准教授
中村正彦

このたび日本臨床分子形態学会の栄えある第50回総会・学術集會を主催させていただきましたことに深謝いたします。

副会長の寺田総一郎先生、事務局長の横森弘昭先生、プログラム委員長の東俊文先生と力を合わせて準備にあたりましたが、会場設定、演題募集、プログラム設定、特別講演演者の決定、募金活動、抄録作成と直前の数ヶ月はあっという間に過ぎて行き、学会も嵐のように過ぎたというのが実感です。無事終了できたのはご協力、ご支援いただいた方々のおかげと感じております。また、開催前日の9月6日午前3時に、北海道胆振東部地震にみまわれ、北海道地区からの座長、演題発表者は上京できず、たまたま北海道に出張されていた先生も御欠席となりましたが、皆様ご無事との連絡をいただき、安堵しました。

今回は第50回にあたることから、向坂 彰太郎理事長、片渕 秀隆副理事長とご相談し大先輩の谷川久一先生、畑俊夫先生、円山英昭先生による今までのこの学会に関する鼎談をお願いしました。また、理事の先生方に今後の学会のあり方についての貴重なご意見をいただきました。突然の指名にも関わらず、お話いただきありがとうございました。

臨床電子顕微鏡学会時代を含め、北里大学としてはこの学会ははじめての主催であり、また母校の慶應義塾大学としては第14回（1982年）を病理学教室の坂口 弘先生が旧日本都市センターで開催されて以来、36年ぶり2回目となりました。その経緯もあり、坂口先生の何代目かの後任となります金井弥栄教授に「病理組織検体のオミックス解析に見るがんの多様性」と題する特別講演をお願いしました。検体保存の標準化によるデータの信頼性向上など今後のますますの展開が期待される内容でした。

また、開催いたしました白金地区は、北里柴三郎が福沢諭吉から譲り受け、1893年（明治26年）9月、日本最初の結核サナトリウム「土筆ヶ岡養生園」を設立した場所であり、北里大学の現在の本部もここに 있습니다。2015年のノーベル医学生理学賞を受賞された大村智栄誉教授もこのキャンパス内におられ、学会はその受賞を記念して改称された大村記念ホールを中心に開催いたしました。また、一番弟子の供田洋先生に「動物細胞内中性脂質蓄積を指標とした新規創薬素材の探索」と題する講演をしていただきました。座長の小路武彦先生と大学学部の同期という偶然にも驚きました。

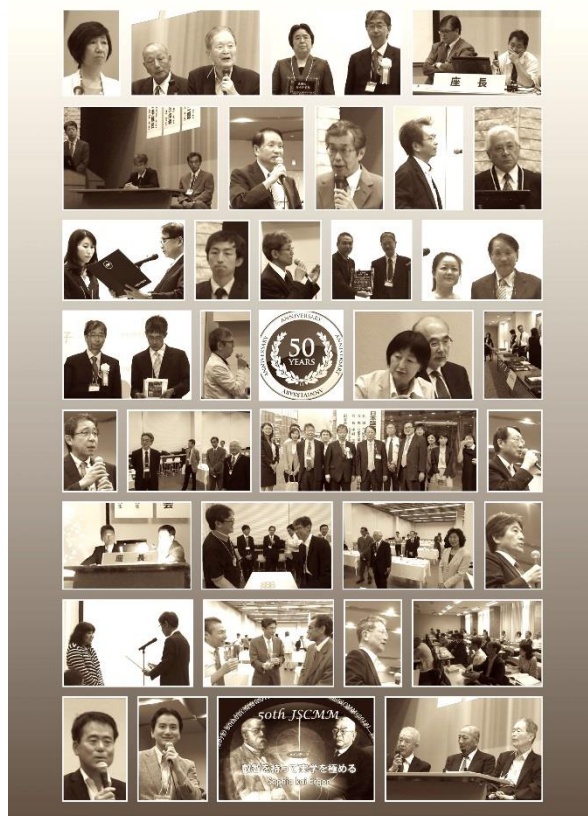
今回のメインテーマは、北里大学学祖の北里柴三郎博士の言葉であり、大学のモットーである“Sophia kai Ergon 叡智と実践”を取り上げさせていただきました。このギリシャ語の由来はソクラテスからともいわれ、その言葉のなかに「人間の美德はすべてその実践と経験によっておのずと増え、強まるのである」という名言があり、北里博士の「学者の知識はどんなに革新的で高尚なものであっても、それが一般社会に還元されなければ何の役にもたたない」という持論と一致したのではないかと、考えております。

特別講演は、前述の二名に加え、読売新聞医療部 館林牧子さんと北里大学名誉教授の檀原宏文先生にお願いしました。館林さんの「平成年間の医療記事の移り変わり」と題する講演からは、この30年間の医療を取り巻く環境の変遷、とくに社会情勢、国の財政との関係が深まってきたことが納得できました。また、また、ご専門の微生物学に加え、北里柴三郎記念館においてその生涯を研究され、故郷の小国町から熊本まで徒歩で辿られたご経験を持つ檀原宏文先生に、その旅を経て得られた北里柴三郎論をお願いしました。司会の片渕 秀隆先生のお話にもありましたように、今まで知らなかった青年期の北里柴三郎の葛藤、さらにそれが飛躍へとつながったことがわかりました。

シンポジウムとしては、ゲノムと肝臓の二つを取り上げました。それぞれ、さまざまな観点からの演題が発表されました。特に病理診断とAIとの関連が注目されました。ワークショップは、病理および婦人科領域のテーマを取り上げました。いずれも面白い演題が集まっており、活発な議論が交わされました。

新基軸として、Help me cornerをもうけました。まだ初回であるため、認知度が低く、今後の展開が期待されました。また、分野横断的テーマによる企画や国際化なども今後の学会での課題ということになりました。

この学会は、学際性がその特徴とされます。辞書によれば、“二つ以上の科学の境界領域にあること。いくつかの分野にまたがり関連することで、 *interdisciplinary* の訳語として、「国際」にならって1970年ごろ造られた語”とされます。本会のさまざまな領域の研究者が一堂に集い、共通する真理をもとめて、討議するという主旨と確かに合致すると考えます。今後のますますの発展を祈念いたします。



○第51回日本臨床分子形態学会総会・学術集会のご案内○

2019年9月20日(金)・21日(土) 会長 鳥村拓司先生 副会長 古賀浩徳先生 事務局長中村徹先生
久留米シティプラザ (〒830-0031)福岡県久留米市六ツ門町8-1
ふるってご参加のほどお願い申し上げます。

第51回日本臨床分子形態学会開催にあたり



久留米大学医学部内科学講座消化器内科部門
鳥村拓司

2019年9月20(金), 21(土)の両日第51回日本臨床分子形態学会を久留米シティプラザにおいて開催する運びとなりました。伝統ある本会を担当させていただくことを大変光栄に存じています。

近年の医学の進歩は目覚ましいものがあり、ともすれば自分の専門分野以外のことにはついていけないこともしばしば経験します。本学会は「分子形態学的な研究」をキーワードとし、様々な領域の方々が集うユニークな学会です。日頃あまり経験しない専門領域以外の先端的な「分子形態学的な研究」に触れて、自身の研究の発展に役立てる2日間になってほしいという願いを込めて、第51回学術集会のテーマを「基礎と臨床のマリアージュ」とし、基礎、臨床両面から分子形態学を盛り上げていこうと考えています。

特別講演は東京大学大学院医学系研究科機能生物学専攻システムズ薬理学教室の上田泰己教授と、東京医科歯科大学の統合研究機構先端医歯工学創成研究部門の武部貴則教授にお願いしており、各々の分野での世界最先端のお話をしていただけるものと思います。さらに、シンポジウムも一風変わったテーマを用意しており、皆様に久留米までわざわざ来たかいたがかったと思っただけのような会にするべく、教室員一丸となって準備に取り組んでいます。

学会が開催される9月は、まだまだ残暑厳しい頃ではありますが、2日間久留米で昼は真剣に勉強し、夜は会場のすぐ近くにある「文化街」という飲み屋街でより真剣に盛り上がりたと思います。

皆様におかれましては、万障繰り合わせのうえ久留米へお越しいただきますよう教室員一同お待ちしております。

第51回日本臨床分子形態学会総会・学術集会 運営事務局

(株式会社コンベンションリンクージ)

〒812-0016

福岡市博多区博多駅南1-3-6第三博多偕成ビル

TEL : 092-437-4188 FAX : 092-437-4182

MAIL : jscmm51@c-linkage.co.jp

広報委員会からのお知らせ



久留米大学医学部 病理学講座
広報委員長 矢野博久

日本臨床分子形態学会の会員みなさまにおかれましては、益々御健勝のこととお喜び申し上げます。

この度、4年ぶりに会報44号を発刊することができました。

今回は、新理事長に就任された片淵秀隆先生、第50回総会・学術集会を主催されました中村正彦先生、そして、次期第51回総会・学術集会を開催予定の鳥村拓司先生に執筆をお願いいたしました。

今後、会報を定期的に発刊し、会員みなさまに役員紹介や学術集会などの学会情報、講演会のお知らせ、本の紹介などをお届けする予定です。また、会員みなさまで、会報に何かご希望がありましたら、どうぞ事務局の方までご連絡ください。今年も残り少なくなり、冬も本番になってまいりました。お体ご自愛いただき、良いお年をお迎えください。

お問い合わせ先

日本臨床分子形態学会事務局
〒606-8305京都市左京区吉田河原
町14近畿地方発明センタービル8
Tel.075-771-1373
Fax075-771-1510
e-mail: denken@chijin.co.jp